

参 考 資 料

・人名等略記

・講演リスト

●人物等略記

・阿呆陀羅經

江戸末期に物貰い、願人坊主などによって歌われた大道での語り的一种。小さな木魚を二つ持って打ち叩き、拍子を取りながら阿弥陀經などをもじった経文まがいの文句と節に、巷談や時代風刺をのせて盛り場や人家の門口で語り、金銭を乞い歩いた。幕末の「ちょんがれ」など浪花節の源流となる諸芸能と類縁のものともみることができる。

・郷宿

各地の城下町や代官役所（陣屋）周辺にあった公事宿。村役人や百姓が公務、訴訟などのために藩庁や代官屋敷へ出頭する際に宿泊。代官所から定宿として指定・公認されたものが多い。

・石谷清昌（1715～1782）

1759年（宝暦九年）勘定奉行、62年長崎奉行を兼務、主に貿易、長崎関係を担当。二朱銀発行のための銀の輸入や輸出統制のための大坂銅座の設立、俵物増産に尽力。76年日光社参掛を勤め、また朝廷経費削減などを行った。

・荻生徂徠（1666～1728）

儒学者。当初朱子学を修めたが、四〇歳頃から古文辞学を提唱、詩文革新に努力。1709年藩邸を出て私塾護園（けんえん）を開く。堀川（古義）学派や新井白石とはライバル関係。門人らと経典解釈の仕事を進めやがて独自の体系を確立。幕政改革の献策に「太平策」、「政談」がある。

・小石元俊（1743～1808）

上方蘭学の祖。大坂で開業、のちに京都に移る。1786年江戸に行き杉田玄白等と交流。1801年京都に学塾究理堂を開いて門弟を養成。しばしば解剖を行い、「平次郎臓図」などを作成。

- ・相馬御風（1883～1950）
 糸魚川生まれ。歌人。早稲田大学校歌を作詞。大正三年島村抱月と合作で「カチューシャ」を作詞。大正五年郷里に帰り、良寛研究に没頭。著書多数。
- ・田中葵園（1783～1846）
 佐渡相川生まれ。和漢神仏の經典に通じ、歴史礼法に詳しい。はじめ西川恒山に学び、後に江戸で林述斎に学ぶ。1823年幕府に請うて広惠倉をおこして米穀に備え、広業堂で子弟教育した。1825年奉行所内に修教館を創建、士人の子弟を教育、これが佐渡最初の学校である。著書に「佐渡志」がある。
- ・西川如見（1648～1724）
 天文、地理学者、町人思想家。長崎生まれ。儒学を修め、南蛮系の天文・暦学を林吉左衛門に学ぶ。「天文義論」、「両儀集説」等多数。
- ・藤沢明卿（1782～1854）
 父、子山は長達の子で湊（両津）に住む。はじめ入江南溟の門には入り儒学を修め、後に山脇東洋、吉益東洞に就いて医術をきわめた。その長子明卿は医業を継ぎ、上方に遊学し蘭方を修める。佐渡ではじめて西洋医として開業、活躍した。
- ・ベルツ（1849～1913）
 ドイツ御雇外国人医師。1876年東京医学校の教師として来日、以降26年間主に内科学を教え、病理学や精神医学も担当。その後三年間侍医。1905年帰国。この間、ツツガムシ病や脚気などの研究を発表。人々の身近な健康問題に注意を払い、温泉、スポーツ、海水浴の効用を説いた。
- ・宮崎安貞（1623～1697）
 農学者。広島藩出身。25歳のとき福岡藩に致仕。同国の女原村（みうばる、現西区）に隠居し、農事を業とする。山陽道をは

じめ畿内、伊勢、紀伊など諸国を廻り老農の説を聞き取る一方、貝原益軒等とも交わり、中国の農書や本草（薬草）書を研究、自らも栽培技術の改良を行った。

・山脇東洋（1705～1762）

古方派の医師。艮山に師事。1754年官許を得て、京都で男刑死体の解剖を行った。実施をめぐる賛否両論が起きたが、五年後に「臓志」を著し、玄白等の蘭学勃興の誘因となった。

（「日本史広辞典」山川出版社などを参考に作成）

●郷土史研究会講演リスト (丸数字は所収の集を示す)

- 第1回 「先駆ける群像」 平成2.2.4 (講師 田中圭一先生)
- 2回 「思い出すままに」 2.6.3 (中川融先生)
- 3回 「佐渡の木喰と地藏信仰」 2.10.7 (田中先生、以下同じ)
- 4回 「佐渡の名字—そこから考えられるもの」 3.7.7
- 5回 「金山は島に何を与えたか—佐渡文化論」 3.11.10
- 6回 「能登と佐渡の間」 4.6.21 ②
- 7回 「明治の佐渡—内側を見た人、外側で働いた人」 4.10.18
- 8回 「蘭学者 柴田収蔵」 5.2.21 ③
- 9回 「大久保長安と佐渡」 5.11.14
- 10回 「流人 京極為兼の周辺」 6.5.22 ②
- 11回 「良寛の実像」 6.11.27
- 12回 「回船商人 舟登源兵衛(岩谷口)の夢」 7.6.17 ④
(改題:「船と佐渡文化」)
- 13回 「江戸時代の商業と流通」 7.12.10 ④
- 14回 「佐渡の中世—日蓮上人配流とその周辺」 8.5.11 ①
- 15回 「佐渡おけさと相川音頭」 8.11.10 ①
- 16回 「世阿弥の頃の佐渡」 9.5.25 ①
- 17回 「十八世紀・佐渡を動かした人々」 9.11.8 ②
- 18回 「北一輝と明治の佐渡」 10.5.30 ④
- 19回 「千歯(せんば) こき一氏江市郎兵衛の話」 10.10.31 ③
- 20回 「佐渡人氣質はどこからきたか」 11.5.29 ③
- 21回 「木喰」 11.11.27
- 22回 「遍照坊智専」 12.6.3 ⑤
- 23回 「北溟雑誌と本荘了寛」 12.11.5 ⑤
- 24回 「佐渡金銀山と鎖国」 13.5.27 ⑤
- 25回 「長谷川元良と竹中成憲—幕末・明治の科学者達—」 13.11.18 ⑥
- 26回 「良寛伝記の世相」 14.5.19 ⑥
- 27回 「『佐渡四民風俗』の時代」 14.11.30 ⑥
- 28回 「佐渡病院」 15.5.31
- 29回 「奥平謙輔と北一輝」 15.11.16